

第15回 【保健】 現代社会と健康

# 精神疾患の特徴

## 今回の学習内容

2022年度から高校の学習指導要領が改訂され、保健体育の授業で「精神疾患」に関わる単元を学ぶことになりました。うつ病、統合失調症、不安症といった精神疾患は若い世代に発症しやすいにもかかわらず、正しい知識を学ぶ機会がなかったことが背景にあります。精神疾患に対する偏見や誤解も根強く、高校生の皆さんには正しい知識を知っておく必要があります。



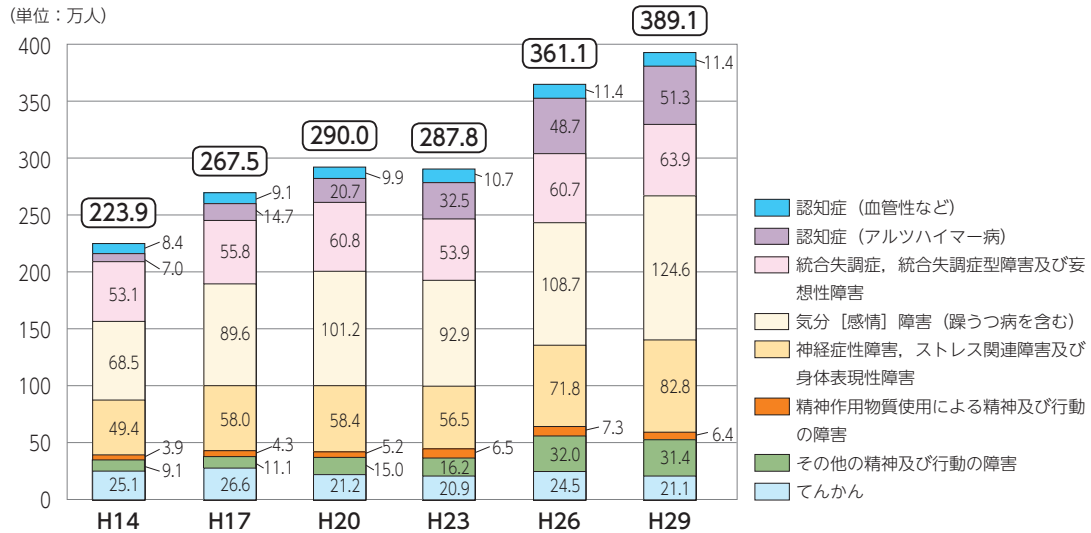
講師  
武市 可奈子  
(学習メモ執筆)

壇 蜜 先生

## 精神失患の要因とおもな精神失患

精神疾患の発病は脳機能の障害などの生物学的な要因や、個人の考え方などの心理的要因、過労や睡眠不足による身体的要因などが関係しています。また、人間関係のトラブルなどのストレスなどによる社会的要因も複雑にからんでいます。

### ■精神疾患を有する外来患者数の推移 (疾病別内訳)



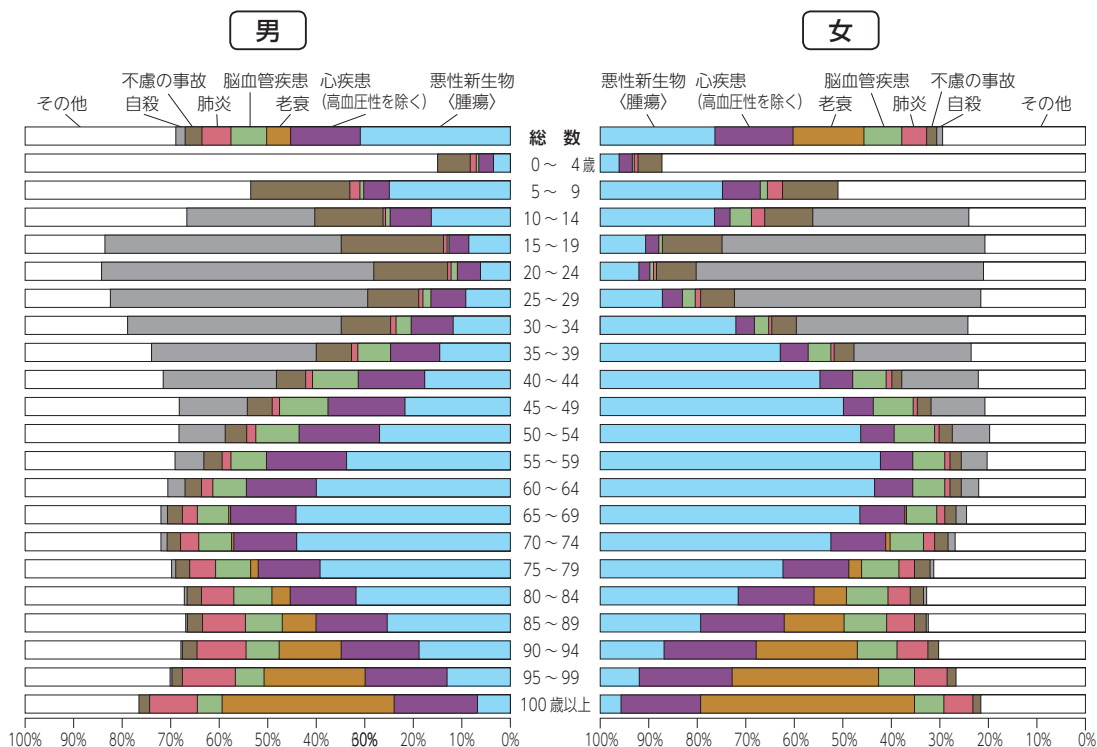
※ H23年の調査では宮城県の一部と福島県を除いている / 資料：厚生労働省「患者調査」より作成

### 精神失患に関わる年代別課題

精神疾患はほかの病気と同様、誰でもかかる可能性のある『ありふれた病気』です。およそ5人に1人が障害に1回なんらかの精神疾患を経験するといえます。また、日本において15歳から39歳の最多の死因は自殺です。自殺の背景は精神保健上の問題が隠れている場合が少なくありません。不調に早く気が付き、誰かに相談したり助けを求めたりすることが重要です。

50歳を過ぎたころから抑うつ状態現れるようになることも多く、これを「初老期うつ病」といいます。「初老期うつ病」というのは、仕事を続けなければならないという負荷や経済的負担、家族に対する心配などが原因で、不安焦燥・意欲の低下・体重減少などの症状が起こります。

■年齢階級別の死因の構成割合（疾病別内訳）

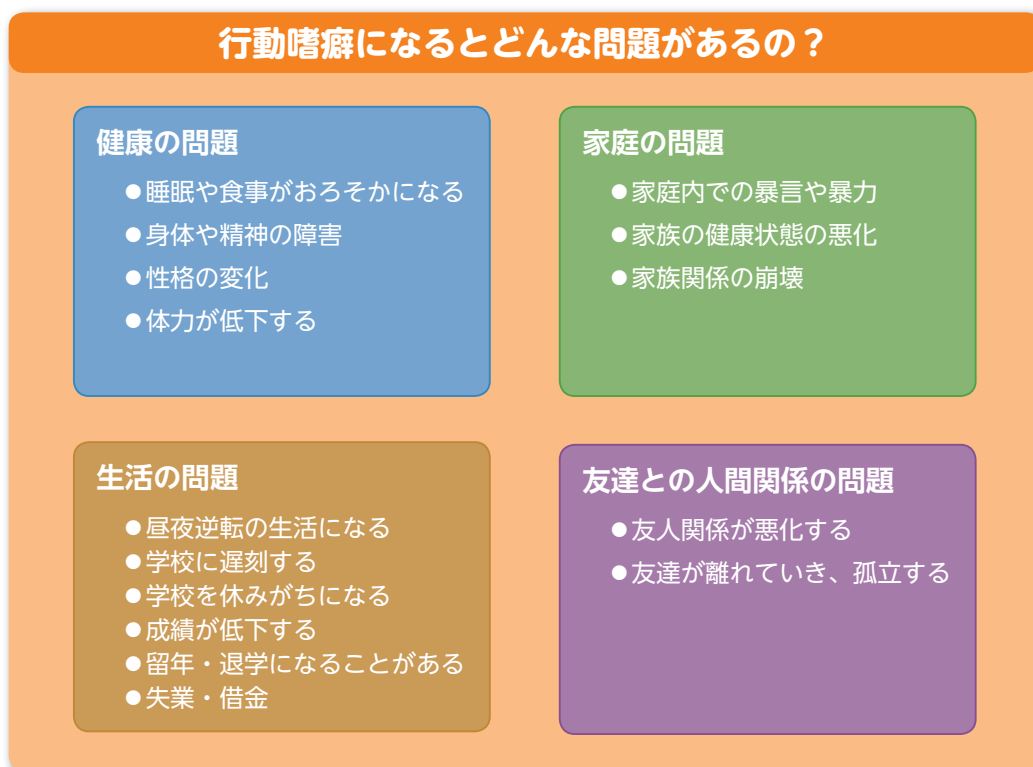


※資料：厚生労働省「令和2年(2020)人口動態統計月報年計(概数)の概況」より作成

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。

## 現代社会と精神保健

人間は不利益が大きいにも関わらず、しばしば薬物やギャンブルをやめられなくなりま  
す。これを嗜癖しへきといい、その背景には脳の回路の機能不全があります。嗜癖は大きく3つに  
分けられます。1つ目は「物質依存」でアルコール依存や薬物依存のように物質に依存する  
ものです。2つ目はギャンブルや買い物、ゲームやスマートフォンの使用などの依存を「行  
動嗜癖」といいます。3つめは「関係依存」といって誰かしら人間関係に依存したりするこ  
とです。嗜癖により特定の習慣がいきすぎでしまうと、さまざまな健康問題や社会問題を引  
き起こします。



文部科学省「行動嗜癖を知っていますか？ ギャンブル等にのめり込まないために」より作成

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。